

2024 年度 授業計画(シラバス)

| | | | | | |
|---|---|---|------------------------|------------------------------|---------|
| 学 科 | 視能訓練士学科1年制 | 科 目 区 分 | 専門分野 | 授業の方法 | 実習 |
| 科 目 名 | 生理光学実習 | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 60 (2) |
| 対 象 学 年 | 1年 | 学期及び曜時限 | 前期 | 教室名 | 7・4F実習室 |
| 担 当 教 員 | 高宮麻也子・昏石勝代 | | | | |
| 実務経験と その関連資格 | <p>【実務経験】 高宮麻也子:視能訓練士として総合病院、クリニックに勤務。光学的屈折矯正検査に従事。 昏石 勝代:視能訓練士として19年総合病院に勤務し、光学的屈折矯正検査に従事。</p> <p>【関連資格】 視能訓練士</p> | | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | |
| <p>検査の手技、検査説明、検査原理を実技実習を通して習得させる。 眼科診療において必須検査である屈折検査を主に実習し、臨地実習に向けて理論に基づいた実技を行えるように指導する。</p> | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | |
| <p>本試験 50% 平常点(実技チェック レポート提出など含む) 50%</p> | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | |
| <p>視能学第3版(小林 義治、松岡 久美子、臼井 千恵、岡 真由美編集:文光堂,2022) 眼科検査法(湖崎 克監修,滋慶学園グループ視能訓練士養成校担当教員編著:懶滋慶出版,2017) 生理光学ドリル基礎編 滋慶教育科学研究所:滋慶出版,2015 生理光学ドリルII 滋慶教育科学研究所:滋慶出版,2014</p> | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | |
| <p>授業の予習、復習 小テストの勉強と見直し</p> | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | |
| <p>臨地実習において屈折検査の理論の理解と基本的な検査手技の習得は事前準備として必須である。本科目では、学生同士が被検者、検者となりお互いに検査を行う。検査の手技の習得とともに場面に応じた検査説明を検討し、実践することで臨床における説明力の基礎を習得することが望まれる。</p> | | | | | |
| 授業の 方法 | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第 1 回 | 授業を 通じての 到達目標 | 裸眼視力検査の理論を理解し、検査できる。 | 視力検査機器 | 教科書の該当ページを読んでおくこと | |
| | 各コマに おける 授業予定 | 裸眼視力測定・0.1未満の視力検査 (字一つ、指数弁、手動弁、光覚) | | | |
| 第 2 回 | 授業を 通じての 到達目標 | 検査の原理が説明できる。 瞳孔間距離を正しく測定することができる。 | PD計 | レポート作成 授業に加え、自主的な実習が望まれる。 | |
| | 各コマに おける 授業予定 | 瞳孔間距離測定 | | | |
| 第 3 回 | 授業を 通じての 到達目標 | 他覚的屈折検査の説明ができる。 裸眼視力が測れる。 | 視力検査機器 | 授業に加え、自主的な実習が望まれる。 | |
| | 各コマに おける 授業予定 | 他覚的屈折検査、裸眼視力測定 | | | |
| 第 4 回 | 授業を 通じての 到達目標 | 検査の原理が説明できる。 レンズメーターで単焦点眼鏡の度数を正確に測定することができる。 | レンズメーター 生理光学ドリル | レポート作成 授業に加え、自主的な実習が望まれる。 | |
| | 各コマに おける 授業予定 | レンズメーター測定(単焦点) | | | |
| 第 5 回 | 授業を 通じての 到達目標 | 他覚的屈折検査の説明ができる レンズ交換法の理論が説明できる | 教科書 検査ノート 視力検査機器 | 授業に加え、自主的な実習が望まれる。 | |
| | 各コマに おける 授業予定 | 自覚的屈折検査(レンズ交換法)、他覚的屈折検査 | | | |

| 授業の方法 | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|-------------|---|---------------------------|------------------------------|
| 第6回 | 授業を通じての到達目標 | 検査の原理が説明できる。 レンズメーターで単焦点眼鏡の度数を正確に測定することができる。 | レンズメーター 生理光学ドリル | レポート作成 授業に加え、自主的な実習が望まれる。 |
| | 各コマにおける授業予定 | レンズメーター測定(単焦点) | | |
| 第7回 | 授業を通じての到達目標 | 屈折検査ができ、正しく記載できる。検査の原理が説明できる。 | 教科書 検査ノート 視力検査機器 | 授業に加え、自主的な実習が望まれる。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 自覚的屈折検査(レンズ交換法)、他覚的屈折検査 | | |
| 第8回 | 授業を通じての到達目標 | レンズメーターで単焦点眼鏡の度数を正確に測定することができる。 前眼部検査が正しく実施できる。検査結果を考察できる。 | レンズメーター 生理光学ドリル 眼突計 | レポート作成 授業に加え、自主的な実習が望まれる。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 前眼部検査・レンズメーター(単焦点) | | |
| 第9回 | 授業を通じての到達目標 | 屈折検査ができ、正しく記載できる。検査の原理が説明できる。 | 教科書 検査ノート 視力検査機器 | 授業に加え、自主的な実習が望まれる。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 自覚的屈折検査(レンズ交換法)、他覚的屈折検査 | | |
| 第10回 | 授業を通じての到達目標 | レンズメーターで単焦点眼鏡の度数を正確に測定することができる。 前眼部検査が正しく実施できる。検査結果を考察できる。 | レンズメーター 生理光学ドリル 眼突計 | レポート作成 授業に加え、自主的な実習が望まれる。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 前眼部検査・レンズメーター(多焦点) | | |
| 第11回 | 授業を通じての到達目標 | 屈折検査ができ、正しく記載できる。検査の原理が説明できる。 | 教科書 検査ノート 視力検査機器 | 授業に加え、自主的な実習が望まれる。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 自覚的屈折検査(クロスシリンダー)実習 | | |
| 第12回 | 授業を通じての到達目標 | レンズメーターで単焦点眼鏡の度数を正確に測定することができる。 前眼部検査が正しく実施できる。検査結果を考察できる。 | レンズメーター 生理光学ドリル 眼突計 | レポート作成 授業に加え、自主的な実習が望まれる。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 前眼部検査・レンズメーター(多焦点)・屈折検査 | | |
| 第13回 | 授業を通じての到達目標 | 屈折検査ができ、正しく記載できる。検査の原理が説明できる。 | 教科書 検査ノート 視力検査機器 | 授業に加え、自主的な実習が望まれる。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 自覚的屈折検査(クロスシリンダー)実習 | | |
| 第14回 | 授業を通じての到達目標 | レンズメーターで単焦点眼鏡の度数を正確に測定することができる。 前眼部検査が正しく実施できる。検査結果を考察できる。 | 視力検査機器 | レポート作成 授業に加え、自主的な実習が望まれる。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 前眼部検査・レンズメーター(多焦点)・屈折検査 | | |
| 第15回 | 授業を通じての到達目標 | レンズメーターで単焦点眼鏡の度数を正確に測定することができる。 他覚的屈折検査ができる | 視力検査機器 | 授業に加え、自主的な実習が望まれる。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 見学実習前実技チェック | | |

2024 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 視能訓練士学科1年制 | | 科 目 区 分 | 専門分野 | 授業の方法 | 実習 |
|--|---------------------|--|--|------------------------------|-----------|---------|
| 科 目 名 | 生理光学実習 | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 60 (2) |
| 対 象 学 年 | 1年 | | 学期及び曜時間 | 前期 | 教室名 | 7・4F実習室 |
| 担 当 教 員 | 高宮麻也子・昏石勝代 | 実務経験とその関連資格 | 【実務経験】 高宮: 視能訓練士として総合病院、クリニックに勤務。光学的屈折矯正検査に従事。 昏石: 視能訓練士として19年総合病院に勤務し、光学的屈折矯正検査に従事。 | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | | |
| 検査の手法、検査説明、検査原理を実技実習を通して習得させる。 眼科診療において必須検査である屈折検査を主に実習し、臨地実習に向けて理論に基づいた実技を行えるように指導する。 | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | | |
| 本試験 50% 実技テスト 20% レポート提出 30% | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | | |
| 視能学第2版 丸尾 敏夫、久保田 伸江、深井 小久子編集: 文光堂, 2011 図解 眼科検査法(湖崎 克監修, 滋慶学園グループ視能訓練士養成校担当教員編著: ㈱滋慶出版, 2017) 生理光学ドリル基礎編 滋慶教育科学研究所: 滋慶出版, 2015 生理光学ドリルⅡ 滋慶教育科学研究所: 滋慶出版, 2014 | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | | |
| 授業の予習、復習 小テストの勉強と見直し | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | | |
| 臨地実習において屈折検査の理論の理解と基本的な検査手法の習得は事前準備として必須である。本科目では、学生同士が被検者、検者となりお互いに検査を行う。検査の手法の習得とともに場面に応じた検査説明を検討し、実践することで臨床における説明力の基礎を習得することが望まれる。 | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 | | |
| 第16回 | 授業を 通じての 到達目標 | レンズメーターで単焦点眼鏡の度数を正確に測定することができる。 他覚的屈折検査ができる | 視力検査機器 | 授業に加え、自主的な実習が望まれる。 | | |
| | 各コマに おける 授業予定 | 見学実習前実技チェック | | | | |
| 第17回 | 授業を 通じての 到達目標 | 屈折検査ができ、正しく記載できる。検査の原理が説明できる。 | 視力検査機器 | 授業に加え、自主的な実習が望まれる。 | | |
| | 各コマに おける 授業予定 | 自覚的屈折検査(クロスシリンダー)実習・角膜検査 | | | | |
| 第18回 | 授業を 通じての 到達目標 | 検査ができ、正しく記載できる。検査の原理が説明できる。 | 視力検査機器 | レポート作成 授業に加え、自主的な実習が望まれる。 | | |
| | 各コマに おける 授業予定 | コントラスト視力・PL法 | | | | |
| 第19回 | 授業を 通じての 到達目標 | 屈折検査ができ、正しく記載できる。検査の原理が説明できる。 | 生理光学ドリル | 授業に加え、自主的な実習が望まれる。 | | |
| | 各コマに おける 授業予定 | 自覚的屈折検査(乱視表)実習・角膜検査 | | | | |
| 第20回 | 授業を 通じての 到達目標 | 検査ができ、正しく記載できる。検査の原理が説明できる。 | 調節力検査機器 生理光学ドリル | レポート作成 授業に加え、自主的な実習が望まれる。 | | |
| | 各コマに おける 授業予定 | コントラスト視力・PL法 | | | | |

| 授業の方法 | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|-------------|-----------------------------------|-----------------------|------------------------------|
| 第21回 | 授業を通じての到達目標 | 屈折検査ができ、正しく記載できる。検査の原理が説明できる。 | 視力検査機器 レンズメーター | 授業に加え、自主的な実習が望まれる。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 自覚的屈折検査(乱視表)実習・角膜検査 | | |
| 第22回 | 授業を通じての到達目標 | 調節検査ができ、正しく記載できる。 調節力の計算ができる。 | 調節力検査機器 生理光学ドリル | レポート作成 授業に加え、自主的な実習が望まれる。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 調節検査 | | |
| 第23回 | 授業を通じての到達目標 | 屈折検査ができ、正しく記載できる。検査の原理が説明できる。 | 視力検査機器 | 授業に加え、自主的な実習が望まれる。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 自覚的屈折検査(乱視表)実習・角膜検査 | | |
| 第24回 | 授業を通じての到達目標 | 調節検査ができ、正しく記載できる。 調節力の計算ができる。 | 視力検査機器 | レポート作成 授業に加え、自主的な実習が望まれる。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 調節検査 | | |
| 第25回 | 授業を通じての到達目標 | 屈折検査ができ、正しく記載できる。検査の原理が説明できる。 | 視力検査機器 | 授業に加え、自主的な実習が望まれる。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 検影法 | | |
| 第26回 | 授業を通じての到達目標 | 屈折検査ができ、正しく記載できる。 検査の原理が説明できる。 | 視力検査機器 | レポート作成 授業に加え、自主的な実習が望まれる。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 近見屈折矯正の概要と近見視力検査 | | |
| 第27回 | 授業を通じての到達目標 | 屈折検査ができ、正しく記載できる。検査の原理が説明できる。 | 視力検査機器 | レポート作成 授業に加え、自主的な実習が望まれる。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 検影法 | | |
| 第28回 | 授業を通じての到達目標 | 年齢に応じた付加度数の計算ができる。 | 視力検査機器 | レポート作成 授業に加え、自主的な実習が望まれる。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 近見視力検査と付加度数 | | |
| 第29回 | 授業を通じての到達目標 | 屈折異常とその病態について理解できる | PC プロジェクター 配布資料 | 教科書の該当ページを読んでおくこと。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 近視の概要について | | |
| 第30回 | 授業を通じての到達目標 | 屈折異常とその病態について理解できる | PC プロジェクター 配布資料 | 教科書の該当ページを読んでおくこと。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 近視の概要について | | |